

# 結成20周年記念

## 写真の部

## 最優秀賞



須藤さん 前橋市



表彰された皆さん

## 最優秀賞

## 川柳の部

◇子どもの部◇  
仕事する パパの背中が 父になる  
高橋さん 小学五年

◇学生の部◇  
両親の 苦勞を思い お手伝い  
片岡さん 高校一年

◇大人の部◇  
一日の 疲れぶつとぶ 子の笑顔  
郡さん 太田市

## 作文の部

### ◇優秀賞 小学生低学年の部◇ はたらくお父さん

小学3年 板垣さん

「おはよう。ごはんだよ。」  
あさ、早くおきた僕が、毎日7時にお父さんをおこします。そして家族みんなで、朝ごはんを食べます。朝しかお父さんと話す時間がないので、ごはんを食べながらきのうのできごことをほうこくします。お父さんはうんうんとニコニコしながら僕の話聞いてくれます。  
お父さんは、学校に行く僕を見おくれた後にお母さんの作ったおべんとうを持って会社に行きます。  
お父さんは、マイコンを作っています。マイコンはパソコン、ケイタイ電話、せんたくき、れいぞうこ、などに入っている小さなコンピューターです。お父さんの作ったマイコンが毎日だれかにつかわれてるのは、すごいと思います。  
しごとにとりくんでいるお父さんを1どでも見たいなと思います。  
お父さんは、しごとから帰るのがとてもおそいです。僕がねて、ずっと後の夜中に帰ってきます。夜はねむいのに会社でがんばっているのがすごいです。

おやすみの日のお父さんは、朝なかなかおきてきません。おきてもソファでごろごろしています。僕が遊んでと言うと遊んでくれます。ごろごろしているのは、しごとでとてもつかれてるからだと思います。  
それでもお休みの日には、家族で夏と春にキャンプに行きます。お父さんが先頭に立ってテントをたてたり火をおこしたり、ごはんを作ったりしてくれます。僕たちに魚つりのやり方を教えてくれたりキャンプ場のぼうけんに一緒に行ってくれます。僕はキャンプが大好きです。  
僕の夢の1つはお父さんになることです。子どもがよいことをしたときにごほうびを買ってあげるやさしいお父さんになりたいです。  
もう1つの夢は発明家になることです。お父さんが作ったマイコンがだれかのやくにたっているように僕の発明した「なにか」がだれかのやくにたつたらいいなと思います。  
僕は、お父さんが大好きです。お父さんの1日が元気にスタートできるようにこれからも僕がお父さんをおこしてあげたいです。

### ◇優秀賞 小学生高学年の部◇ 働く人への「恩返し」

小学6年 間々田さん

夜8時、お母さんが帰ってきた。  
「疲れたあ〜。」そう言いながらも、お母さんは立ち上がり、夕ご飯のしたくをする。見るからに疲れているのにしっかりと家事をこなしている。学校の家庭科の授業で、お味噌汁を作ることになった。1グループ5人で作ったが、分量を量ったり、材料を入れるタイミングなど、いろいろなことが一度に起こり、とても大変だった。家事は料理だけではないけれど、自分でやってみてはじめて大変さがわかった。  
そして今、私は夕ご飯を食べている。このいつもの日常で、私がこうして生活するために支えてくれている人は何人いるのだろうか。  
それはとてつもない人数だ。ご飯をつくってくれたお母さんから始まり、その食材をつくってくれた人。その料理をよそう器を作ってくれた人、そして、家具やテレビ、家を作ってくれた人…と、数え切れない。そしてその多くの人は私を知らない人達ばかりだ。  
しかし私は、その多くの人達に何のお礼もできていない。お金はもちろん出しているが、それも、お父さんかお母さんが出して私の生活を支えてくれている。結局私は、1人では私を支えてくれる人達に何のお礼もできていない。

「どうしたらみんなに感謝の気持ちを伝えられるかな。」と、考えてみた。そして、学校で『やりたい仕事』について調べる授業を受けたことを思い出した。その時は「みんなの役に立つ仕事がいいな・・・。」と考えたが、どんな仕事があるのかわからなかった。お母さんはどんな仕事をしているかを聞いてみても「みんなのためになる仕事をしているよ。」と言うだけで内容は難しくわからなかった。  
「興味があったり、得意なことをいさせる仕事がいいね。」「どんな仕事があるかな。」と授業ではいっていた。私は算数や理科の実験が好きなので、それに関係がある仕事で、私を支えてくれるたくさんの人と同じくらい多くの人の役に立ち、困っている人を助けられる仕事をしたいと思った。その時は「医者になろう!」と考えたが、今はいろんな仕事があることがわかってきた。友達のお父さんやお母さんにも、どんな仕事をしているか聞いてみたくなった。  
今、私は6年生で、小学校の最上級生だ。1年生や下級生の面倒は見ているけれど、まだまだ私もみんなに支えられながら生活している。今はまだ、できることは少ないけれど、いつか絶対みんなに恩返ししたい。年を重ねるごとに、私を支えてくれた人も多くなる。私も、夢に向かって進んでいく。何ができるかわからないけれど、一步一步進んでいくことと、それが一番の恩返しだと思う。とりあえず、「ありがとう!そしてこれからもよろしく!」と言いたい。